

## ペリー提督の功績

「泰平の 眠りを覚ます 上喜撰 たった四杯で 夜も眠れず」幕末の時代にあつてアメリカからの黒船来航は大変な衝撃であり大事件であつた。上喜撰とは宇治の高級茶のことでカフェイン作用があることで、ペリー提督の蒸気船にかけている。そして船の数え方でも隻・艇・艘などがあるが専門的には杯の文字も使われている。この時代お茶に引っ掛けての短歌がユーモアを交えて読まれていた。

横須賀市久里浜から出ている東京湾フェリーの待ち時間を利用して近くを散策していると、閑静な公園に迷い込んでしまった。中央に聳える碑に近付くと「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」とあり初代内閣総理大臣・伊藤博文の筆によるものであつた。つまりここが 1853 年 7 月 14 日に日本開国を求めて来航したペリー提督の上陸地であつたのだ。園内のペリー記念館内にはペリー来航に関する歴史的資料や、ペリー上陸前後を描いた絵巻物、黒船の概要を描写した古書、模型など数多く展示されている。

ペリー提督はアメリカのフィルモア大統領の親書を携えて幕府との開国交渉を迫つた。即答できない幕府は翌年までの猶予を求めた。いったん日本を離れたペリーだが半年も早く再び日本にやつてきて「日米和親条約」を結ぶことになった。1854 年 3 月 31 日のことである。これにより 3 代将軍徳川家光以来 200 年以上続いた鎖国は終わりを告げた。新しい日本が生まれていくスタートでもあつた。65 歳の生涯で「日本遠征記」を書き記している。



撮影 2015 年春

